

「北朝鮮による日本人拉致問題に関する特別世論調査」の概要

平成 24 年 7 月 19 日

内閣府政府広報室

調査概要 調査対象 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者 3,000 人
有効回収数(率) 1,912 人 (63.7%)
調査期間 平成 24 年 6 月 7 日～6 月 17 日
調査方法 調査員による個別面接聴取

調査目的 北朝鮮による日本人拉致問題に関する国民の意識を調査し、
今後の施策の参考とする。

調査項目 1 拉致問題の認知度
2 拉致問題を知ったきっかけ
3 広報・啓発活動の行事への参加意識
4 広報・啓発活動の行事で取り上げてほしい内容
5 広報・啓発活動の行事に参加したくない理由
6 参加しやすい広報・啓発活動の行事
7 若い世代への広報・啓発活動

<お願い>

本資料の内容を引用された場合、その掲載部分の写しを
下記宛にご送付ください。

内閣府大臣官房政府広報室

世論調査担当

〒100-8914 東京都千代田区永田町 1 - 6 - 1

電話 03(3581)0070

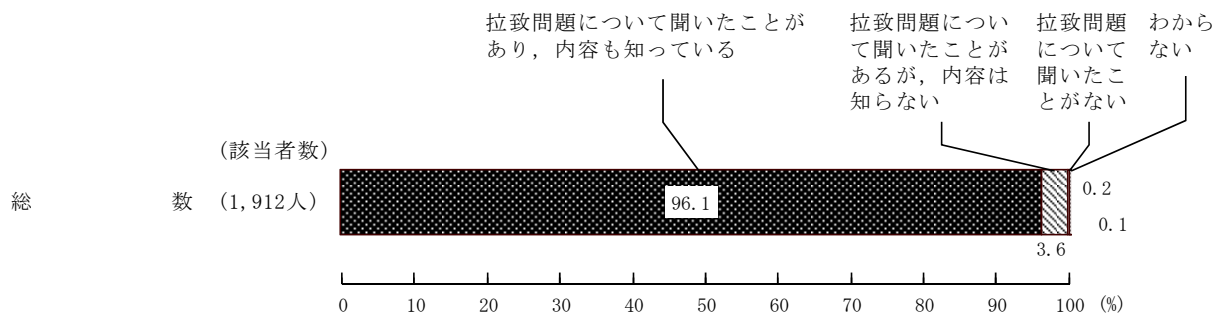
FAX 03(3580)1186

1 拉致問題の認知度について

(1) 拉致問題の認知度

平成 24 年 6 月

- ・ 拉致問題について聞いたことがあり、内容も知っている 96.1%
- ・ 拉致問題について聞いたことがあるが、内容は知らない 3.6%
- ・ 拉致問題について聞いたことがない 0.2%



（「拉致問題について聞いたことがあり、内容も知っている」、「拉致問題について聞いたことがあるが、内容は知らない」と答えた者に）

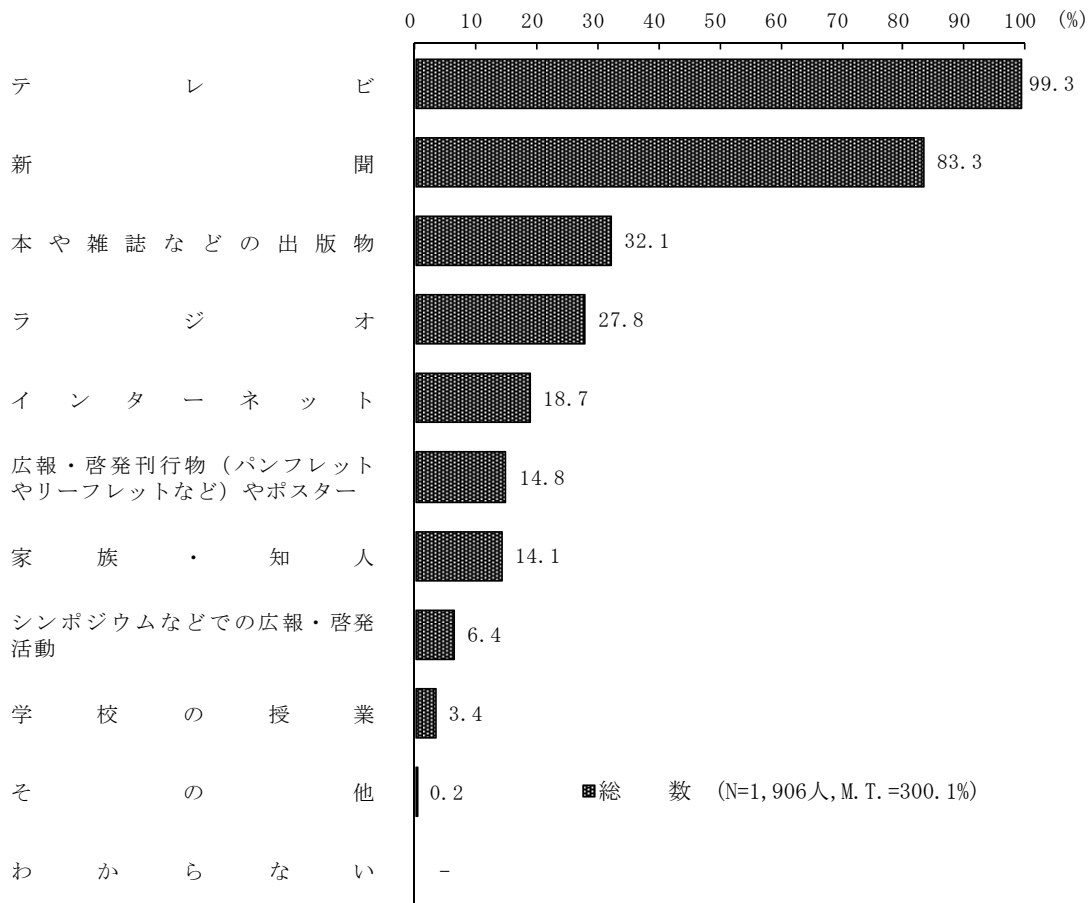
（ア） 拉致問題を知ったきっかけ

（複数回答，上位4項目）

平成24年6月

- ・テレビ 99.3%
- ・新聞 83.3%
- ・本や雑誌などの出版物 32.1%
- ・ラジオ 27.8%

（「拉致問題について聞いたことがあり、内容も知っている」、「拉致問題について聞いたことがあるが、内容は知らない」と答えた者に、複数回答）



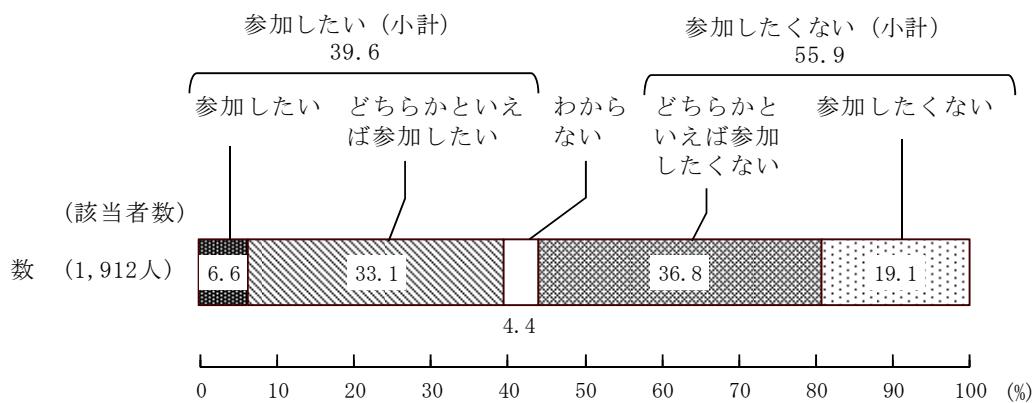
2 拉致問題の解決に向けた広報・啓発活動について

(1) 広報・啓発活動の行事への参加意識

平成 24 年 6 月

・参加したい (小計)	39.6%
・参加したい	6.6%
・どちらかといえ参加したい	33.1%
・参加したくない (小計)	55.9%
・どちらかといえ参加したくない	36.8%
・参加したくない	19.1%

総



(広報・啓発活動の行事に「参加したい」、「どちらかといえば参加したい」と答えた者に)

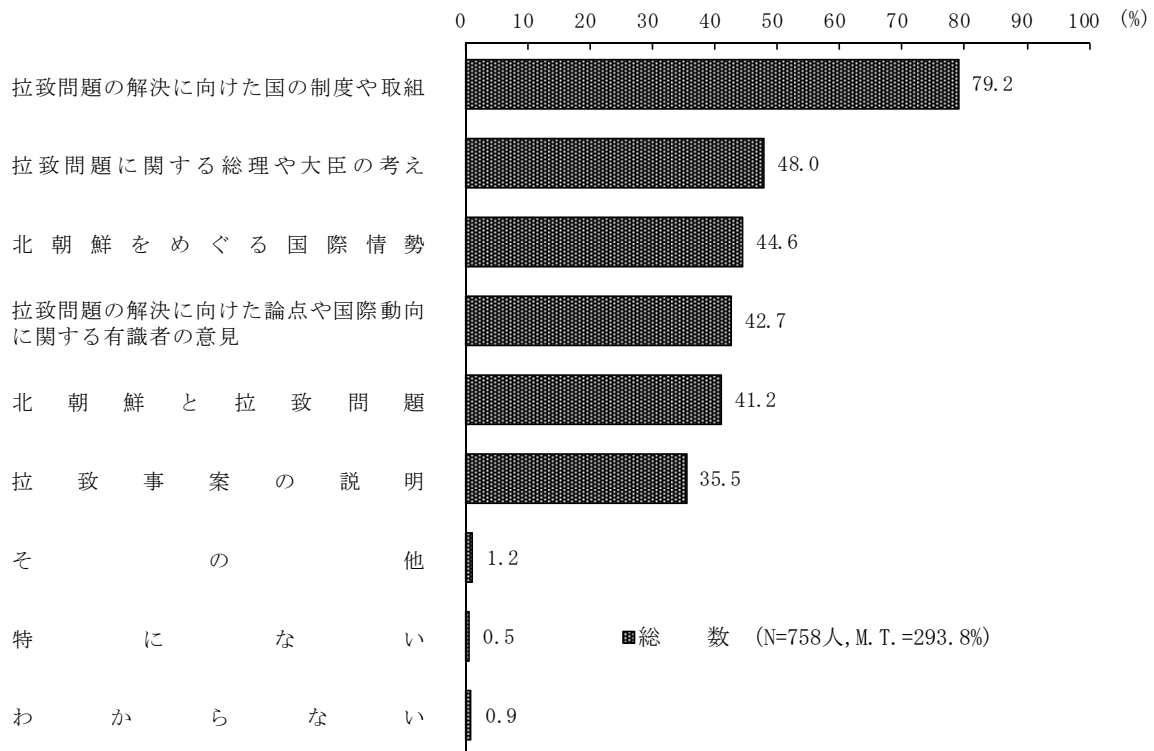
(ア) 広報・啓発活動の行事で取り上げてほしい内容

(複数回答)

平成 24 年 6 月

・ 拉致問題の解決に向けた国の制度や取組	79.2%
・ 拉致問題に関する総理や大臣の考え	48.0%
・ 北朝鮮をめぐる国際情勢	44.6%
・ 拉致問題の解決に向けた論点や国際動向に関する有識者の意見	42.7%
・ 北朝鮮と拉致問題	41.2%
・ 拉致事案の説明	35.5%

〔 広報・啓発活動の行事に「参加したい」、「どちらかといえば参加したい」と答えた者に、複数回答 〕

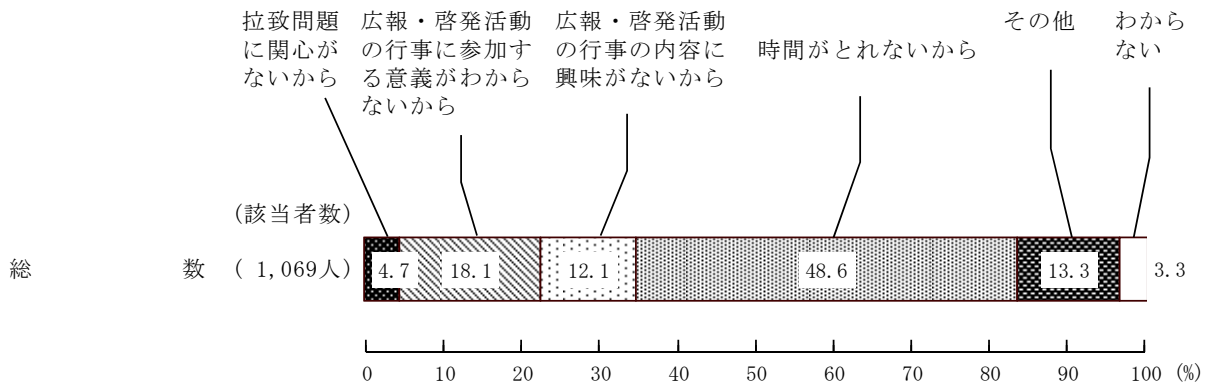


(広報・啓発活動の行事に「どちらかといえば参加したくない」、「参加したくない」と答えた者に)

(イ) 広報・啓発活動の行事に参加したくない理由

平成 24 年 6 月

- ・ 拉致問題に関心がないから 4.7%
- ・ 広報・啓発活動の行事に参加する意義がわからないから 18.1%
- ・ 広報・啓発活動の行事の内容に興味が無いから 12.1%
- ・ 時間がとれないから 48.6%
- ・ その他 13.3%

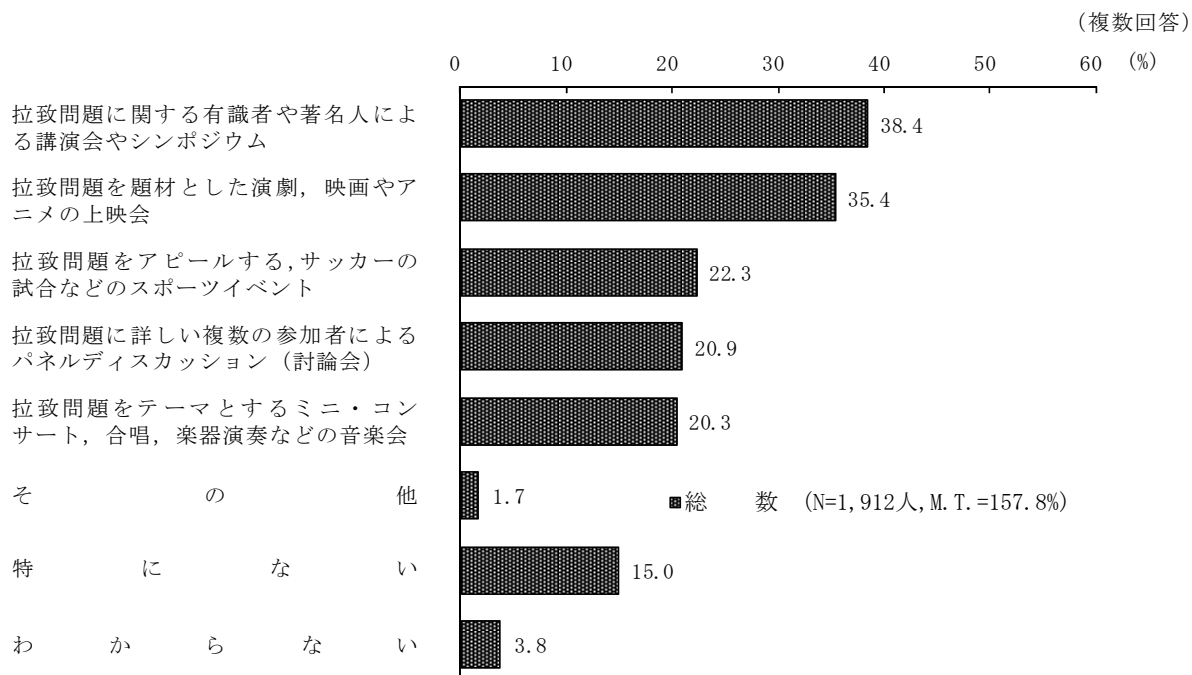


(2) 参加しやすい広報・啓発活動の行事

(複数回答, 上位2項目)

平成24年6月

- ・ 拉致問題に関する有識者や著名人による講演会やシンポジウム 38.4%
- ・ 拉致問題を題材とした演劇, 映画やアニメの上映会 35.4%
- ・ 特にない 15.0%



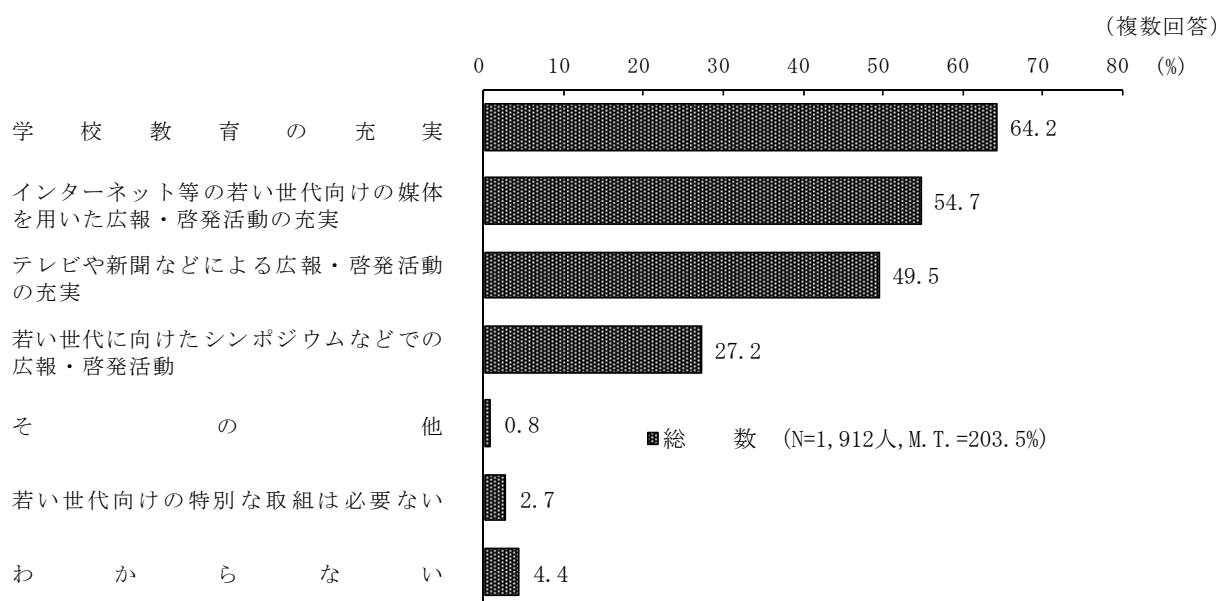
3 若い世代への拉致問題に関する広報・啓発活動について

(1) 若い世代への広報・啓発活動

(複数回答)

平成 24 年 6 月

・学校教育の充実	64.2%
・インターネット等の若い世代向けの媒体を用いた広報・啓発活動の充実	54.7%
・テレビや新聞などによる広報・啓発活動の充実	49.5%
・若い世代に向けたシンポジウムなどでの広報・啓発活動	27.2%



北朝鮮による日本人拉致問題に関する特別世論調査

調査時期：平成24年6月7日～6月17日
調査対象：全国20歳以上の日本国籍を有する者3,000人
有効回収数（率）：1,912人（63.7%）

話は変わりますが、次に時事問題として、「北朝鮮による日本人^{らち}拉致問題」についてお伺いします。

（【資料】を提示して、対象者によく読んでもらってから質問する。）

【資料】

昭和50年代に、多くの日本人が不自然な形で姿を消す事件が発生しました。その多くには、北朝鮮による^{らち}拉致の疑いが持たれています。日本政府は、これまでに17名を北朝鮮による拉致被害者として認定しています。

北朝鮮は、平成14年9月の日朝首脳会談で初めて日本人拉致を認めましたが、拉致被害者のうち帰国できたのは5人に留まっています。そのほかの12人の被害者については、北朝鮮から安否に関する納得のいく説明がなされていません。

拉致問題は、我が国の国家主権及び国民の生命と安全にかかわる重大な問題であり、政府は、その解決に向けてあらゆる施策を行っています。

拉致問題の解決のためには、政府の取組だけではなく、国民世論の盛り上がりが必要です。そこで、様々な広報・啓発活動を実施し、拉致問題が風化しないよう努めています。

●政府主催： ○拉致問題シンポジウム（毎年12月の北朝鮮人権侵害問題啓発週間に実施）

●都道府県などの地方公共団体、拉致被害者家族会などの拉致問題関連民間団体主催：

○講演会 ○シンポジウム ○拉致問題啓発映画・アニメの上映会 など

1. 拉致問題の認知度について

Q 1 【回答票 1】あなたは、日本と北朝鮮との間に「北朝鮮による日本人拉致問題」があることをご存知ですか。この中から 1 つだけお答えください。

- (96.1) (ア) 拉致問題について聞いたことがあり、内容も知っている
 - (3.6) (イ) 拉致問題について聞いたことがあるが、内容は知らない
 - (0.2) (ウ) 拉致問題について聞いたことがない
 - (0.1) わからない
- (次ページの Q 2 へ)

(Q 1 で「(ア) 拉致問題について聞いたことがあり、内容も知っている」, 「(イ) 拉致問題について聞いたことがあるが、内容は知らない」と答えた方に)

S Q 【回答票 2】拉致問題を何から知りましたか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

(N=1,906)

- (99.3) (ア) テレビ
- (27.8) (イ) ラジオ
- (83.3) (ウ) 新聞
- (32.1) (エ) 本や雑誌などの出版物
- (18.7) (オ) インターネット
- (3.4) (カ) 学校の授業
- (14.1) (キ) 家族・知人
- (6.4) (ク) シンポジウムなどでの広報・啓発活動
- (14.8) (ケ) 広報・啓発刊行物 (パンフレットやリーフレットなど) やポスター
- (0.2) その他 ()
- (-) わからない

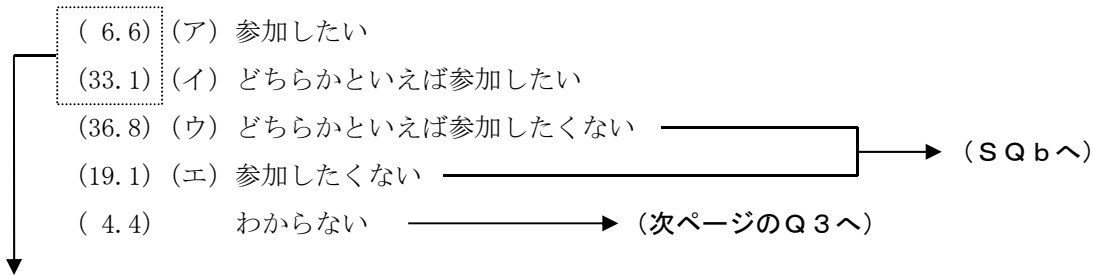
(M. T. =300.1)

2. 拉致問題の解決に向けた広報・啓発活動について

拉致問題の解決に向けて、政府や地方公共団体、拉致被害者家族会などの拉致問題関連の民間団体が開催するシンポジウム、講演会、映画会といった様々な広報・啓発活動についてお伺いします。

(全員の方に)

Q 2 【回答票 3】あなたは、拉致問題の解決に向けた広報・啓発活動の行事に参加したいと思いますか。この中から1つだけお答えください。



(Q 2で「(ア) 参加したい」, 「(イ) どちらかといえば参加したい」と答えた方に)

S Q a 【回答票 4】あなたは、拉致問題の解決に向けた広報・啓発活動の行事において、どのような内容を取り上げてほしいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

(N=758)

- (35.5) (ア) 拉致事案の説明
- (48.0) (イ) 拉致問題に関する総理や大臣の考え
- (79.2) (ウ) 拉致問題の解決に向けた国の制度や取組
- (44.6) (エ) 北朝鮮をめぐる国際情勢
- (41.2) (オ) 北朝鮮と拉致問題
- (42.7) (カ) 拉致問題の解決に向けた論点や国際動向に関する有識者の意見
- (1.2) その他 ()
- (0.5) 特にない
- (0.9) わからない

(M. T. =293. 8)

(Q 2で「(ウ) どちらかといえば参加したくない」, 「(エ) 参加したくない」と答えた方に)

S Q b 【回答票 5】広報・啓発活動の行事に参加したくない理由は何ですか。この中からあなたのお考えに最も近いものを1つだけお答えください。

(N=1, 069)

- (4.7) (ア) 拉致問題に関心がないから
- (18.1) (イ) 広報・啓発活動の行事に参加する意義がわからないから
- (12.1) (ウ) 広報・啓発活動の行事の内容に興味が無いから
- (48.6) (エ) 時間がとれないから
- (13.3) その他 ()
- (3.3) わからない

(全員の方に)

Q 3 【回答票6】あなたは、拉致問題の解決に向けた広報・啓発活動の行事として、どのようなものなら参加しやすいと思いますか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

- (38.4) (ア) 拉致問題に関する有識者や著名人による講演会やシンポジウム
- (20.9) (イ) 拉致問題に詳しい複数の参加者によるパネルディスカッション (討論会)
- (35.4) (ウ) 拉致問題を題材とした演劇, 映画やアニメの上映会
- (20.3) (エ) 拉致問題をテーマとするミニ・コンサート, 合唱, 楽器演奏などの音楽会
- (22.3) (オ) 拉致問題をアピールする, サッカーの試合などのスポーツイベント
- (1.7) その他 ()
- (15.0) 特にない
- (3.8) わからない

(M. T. =157.8)

3. 若い世代への拉致問題に関する広報・啓発活動について

Q 4 【回答票7】あなたは、今後、若い世代に対し、拉致問題への理解を促進するためには、どのような取組が効果的と考えますか。この中からいくつでもあげてください。(M. A.)

- (27.2) (ア) 若い世代に向けたシンポジウムなどでの広報・啓発活動
- (49.5) (イ) テレビや新聞などによる広報・啓発活動の充実
- (54.7) (ウ) インターネット等の若い世代向けの媒体を用いた広報・啓発活動の充実
- (64.2) (エ) 学校教育の充実
- (0.8) その他 ()
- (2.7) (オ) 若い世代向けの特別な取組は必要ない
- (4.4) わからない

(M. T. =203.5)